

茨城大学学報

第270号

平成18年12月～平成19年1月



第30回熱気球琵琶湖横断レースで優勝（熱気球同好会）

INDEX

- ◆平成19年年頭挨拶
- ◆事務局消防訓練を実施
- ◆農学部外部評価委員会を開催
- ◆「スーパーサイエンスセミナー・体験プログラム」
- ◆「みとしん教育ローン」の協定締結
- ◆忠北大学校工科大学（韓国）教授等が来学
- ◆附属中学校2年生、文部科学大臣奨励賞受賞
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースにより
12月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

学長19年年頭挨拶

みんなの力で希望の灯をさらに大きく

—第1期中期計画の折り返し地点に入るに当たって—

平成19年1月4日

茨城大学長 菊池 龍三郎



新年明けましておめでとうございます。教職員及び学外の皆さま方にはお元気で新年をお迎えのことと思います。

教職員の皆さまには、日頃、それぞれの持ち場で、またそれぞれのお立場で、与えられた業務を責任をもって遂行して下さるなど、大学運営に多大なご尽力をいただいていることに心から御礼を申し上げ、今年も積極的にご協力くださるようお願いいたします。

さらに、とりわけ「茨城大学社会連携事業会」等を通じてご寄付等を頂くなど日頃から本学のためにいろいろとご支援をいただいております学外の皆さま方には、この場をお借りして心から御礼申し上げるとともに、本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

振り返って昨年は、安倍内閣が誕生し小泉内閣がやり残した諸課題を仕上げるとして、例えば59年ぶりに教育基本法の改正があったり、現在の教育問題の抜本的な解決を図るとして教育再生会議がスタートしたことなど、特に今後は教育面での動きが注目されるころであります。本学に関連することだけを紹介すれば、社会の各層各世代にわたる活力の増強を図る、いわゆる再チャレンジ支援等の重点施策に関しては、本学も関連する内容で経費を要求しているところですが、こうした新内閣のもとでの教育重視の姿勢に関しては、本学としても、対応可能なところについては確実に応えていかなくてはならないと考えております。

日本経済は戦後最長の景気を持続していると言われていたとはいえ、全体としてはほとんどその実感がなく、国、地方ともに財政の窮乏は進んでおり、その影響は国立大学法人の運営にも少なからぬ影響を及ぼしております。

これから本格的に開始される平成19年度予算の編成作業等に影響してくることは必至ですが、年々運営費交付金が減少する中で、これをどうやって補っていくか、本学が期待する入学者を確実に確保することや外部資金の確保・拡充を図ること等、可能な限りの努力を注いでいきたいと思っております。

しかし、そういった中であっても、特に施設の建設・改修が国の緊縮予算の関係から極

めて困難な状況下にある中で、年末に18年度補正予算案に関して、本学関係では予想を超えて4件の大型改修の可能性があるとの見通しが得られ、徐々に大きなニュースであると受け止めております。加えて、これも既定方針であるところの学生サービスセンター設置のための共通教育棟の改築、さらに国際交流会館の増築等、いくつもの改修工事・増築工事等が控えております。これらの改修工事等の実施は、授業等との関連で極めて大変な作業になりますが、全学的な協力のもとに遂行したいと考えております。

そうした中、教職員の皆さまには、平成19年の年頭に当たってどのような希望や抱負をお持ちでしょうか。近年はなかなか明るい展望を抱くことは難しくなっておりますが、皆さまには、是非今年もまたプラス思考で、積極的に業務の遂行に当たっていただきたいと強く願っております。この十数年来なかなか明るい展望を抱くことは難しくなってきたとはいえ、茨城大学は、今年はより大きな希望を生み出し、学外に発信していきたいと考えております。私が敢えて希望という言葉にこだわるのは、学校、とりわけ高等教育機関である大学は、いつの時代でもどんな時でも、希望を生み出す意欲と力を持ち続けなければならないと思っているからです。

確かに、大学内においては、職員の数は減ることはあっても増えることはないという状況が続き、一方で業務は国際化、IT化等により一層複雑化・高度化・専門化しており、これに対応することが益々大変になってきております。これは本学に限らず、合理化や効率化を図りながら業務やサービスの質の向上に取り組まねばならないすべての国立大学に共通の課題です。今私たちに問われていることは、業務やサービス全体の質の向上を図ることであり、そのためにも、今年はとりわけ、業務全般にわたって、この「チームワーク」と「ひとり何役」という姿勢を是非強く期待したいと思えます。

あと半月後にはセンター試験が実施されます。これまでとは比較にならない厳しいスケジュールに加えて、昨年度から英語のリスニングテストが導入され、細心の注意と配慮が求められることになりました。教職員の皆さまにはご苦勞をおかけしますが、とりわけ重要な業務であることから、入学試験業務に携わる皆さんには十分に準備を進め、協力しながら万全の態勢で臨んでいただきたいと願っております。

今年度は法人化して4年目、第1期中期計画期間の折り返し地点を迎えます。

昨年度の国立大学法人評価委員会による平成17年度業務実績評価では、ご承知の通り、いくつかの課題は指摘されたものの一昨年に比べて相当の前進となりました。しかし、今後はさらに評価の向上を図りたいと思っており、現在中間地点でのヒアリングを一通り実施したところですが、今年度も残すところ僅か、年度計画の確実な実施に向けてご協力をお願いしたいと思います。

さらにご承知のように、19年度評価までが第1期中期計画期間全体の評価の対象となり、いわゆる暫定評価は20年度に実施され、加えて20年度には認証評価も受審することとなっており、まさしく今後2年ほどは評価の年とも言ってよいほど、評価に関わる日程が目白押しです。今年度はこれらが確実に遂行できるようしっかりと準備をする年でもあ

と考えております。

一方で、今年は、教育と研究の両面において、具体的な実績を挙げる事が求められたり、さらにいくつかのプロジェクトがより具体的に動き出すこととなります。特に、教育面では、農学部現代GPに続く、次のGPの獲得に向けて、各部局等においては、課題の絞り込みと実施、実績の確保等に積極的に取り組んでいただきたいと思います。

研究面では、J-PARC構想やサステナビリティ学連携研究機構への参加決定等、すでに相当に注目されているものばかりですが、例えばJ-PARC構想への参加に関しては、概算要求として提出した事項が認められそうだとの見通しが得られ、またサステナビリティ学に関する本学の地球変動適応科学研究機関（ICAS）は昨年の国際シンポジウムが大きな成功を収めるなど、各方面から大きな注目を浴びており、これも含めて本学の研究面での重点的な課題やテーマは次第に形になってきております。いずれこれらは本学の希望になってくれると期待しております。関係の方々には一層の成果を挙げてくださるようご努力をお願いしたいと思います。なお今年は、教育と研究の両面にわたって、全学的に公式・非公式の様々な試みや動きをより触発し、活発化する年にしたいと考えております。

地域の中で存在感があり、地域から頼りにされる大学づくりを目指すという本学の基本目標のもとで、昨年は特に茨城大学同窓会連合会が発足いたしました。鹿島アントラーズとの連携協力関係が実際に動き出したこと、日立市との包括的な連携協力協定が締結されたことにより、すべてのキャンパスがそれぞれ立地している市や町との間で連携協力協定を締結したこと、さらに農学部発の新酒の誕生も間近の様子であり、今年は茨城大学としては、社会連携事業会を中心として、特に地域社会への発信という点では昨年を上回る成果が期待されると思います。

私たちにとって、しっかりと足もとを見据えながら、教職員みんなのチームワークで、課題をひとつずつ着実に遂行していくことによって、本学に寄せられている多くの期待を実現したいと願っています。それ以外に本学の希望と展望を切り開く道はありません。教職員の皆さまには、是非とも希望を持って今年も頑張ってくださいと期待しております。

最後に茨城大学を支えてくださっている学内外の多くの皆さま方の今年一年のご健勝を心から祈念し、年頭に当たってのご挨拶といたします。

今年もよろしくお願いいたします。

◆事務局消防訓練を実施

本学では、平成18年12月15日（金）火災予防の一環として防火意識の高揚を目的とした消防訓練を実施しました。

水戸市消防本部の協力の下、火災発生を想定しての総合訓練、屋内消火栓操作訓練、消火器操作実地訓練及び防火思想普及のための講話並びにビデオ上映を行いました。

年末の多忙な時期での開催でしたが、約150名の教職員・学生が参加し、熱心に防火について学びました。

空気が乾燥しており、火災が発生しやすくなっています。火気の取扱には十分ご注意ください。



◆農学部外部評価委員会を開催

農学部では、平成18年12月19日に2名、12月22日に3名の委員を招き外部評価委員会を開催しました。

最初に、松田学部長から、農学部の教育理念・目的及び法人化後の取り組み方について説明があり、ついで農学部の関係委員会委員長及び各領域の点検評価委員等から、学生の受け入れ状況、カリキュラム、特色ある教育プログラム、教育活動の自己点検評価、学術研究活動、研究推進と外部資金獲得、国際交流、地域・社会への貢献と連携について資料等に基づき説明を行い、説明後には、質疑応答があり、活発な意見交換が出来ました。

委員会の最後には、各外部評価委員による講評があり、農学部の教育及び研究活動、地域社会との連携の重要性等について今後の農学部の指針となる貴重な助言・提言をいただきました。



◆「スーパーサイエンスセミナー・体験プログラム」

本学では、平成18年度地域連携プロジェクト事業として、理学部が主催し、高等学校と連携し「スーパーサイエンス拠点形成」を基幹的目的として、事業を有機的に関連させながら実施しています。

理学部の学術研究の先端的分野および教育内容の一端を魅力的に紹介する「スーパーサイエンスセミナー」や、理学部が有



する高度な実験設備を提供して先端的分野の実験を高等学校の生徒および教員に実際に体験してもらう「スーパーサイエンス体験プログラム」を11月と12月に実施しました。

中でも、「茨城の大地の成り立ちを考える一那珂湊～大洗海岸」（講師：安藤助教授、田切教授、藤縄助教授、岡田助教授）では、茨城県立水戸第二高等学校（文部科学省によりスーパーサイエンスハイスクールに指定）の生徒を対象に、90余名もの生徒と教諭3名が加わり大型バス2台で移動しました。朝8時半に水戸二高を出発し、9時過ぎに阿字ヶ浦海岸に到着し、地層見学を行いました。その後は、徒歩で移動し途中の地層を見学しつ



つ、ハンマーやクリノメーターの使い方を実習しました。平磯海岸で昼食後、天然記念物である白亜紀層を見学した後、バスで大洗海岸に移動し、午後は、礫岩の見学をして地層見学を終了しました。

巡検は終日天候に恵まれ、関係者のご協力のもと、事故等もなく無事終了することができました。

◆「みとしん教育ローン」の協定締結

本学では、平成18年12月20日、地元金融機関である水戸信用金庫との間で、提携教育ローン制度の協定を締結しました。

この協定は、本学独自の学生への経済支援策の一つで、経済的理由で修学に困難がある優れた学生が有意義な学生生活を送れるように、有利な条件で利用できるよう締結したものです。このような提携教育ローンは、既に株式会社常陽銀行、株式会社三菱東京UFJ銀行との間で協定を締結しています。

この提携教育ローン「みとしん教育ローン」は、担保・保証人が不要で営業店での申込みのほか、コールセンターへの電話での申込み、また、自宅への訪問により申込みができる等利便性があります。金利については、1.7%の固定金利で有利な条件となっています。

調印式には、水戸信用金庫から西野理事長ほか6名が、同大から菊池学長ほか理事、部課長など9名が出席し、協定書に署名を行いました。

借主資格は、同大に在学する学生（大学院生を含む）の保護者で水戸信用金庫の営業地域内に勤務または、居住している者等となっています。



西野水戸信用金庫理事長と菊池龍三郎学長

◆忠北大学校工科大学（韓国）教授等が来学

本学では、工学部と学術及び文化交流協定を締結している忠北大学校工科大学から金斗鉉教授と大学院生の金聖哲さんを1月23日（火）から25日（木）までの3日間の日程で迎えました。

両氏は、菊池学長及び白石工学部長を表敬訪問した後、工学部において「知識ベースに基づくファジー推論を用いた電気火花診断システムの開発」についての講演会があり、多数の教員及び院生の聴講を受け、幅広い意見交換が行われました。

また、金教授の専門分野である電気電子工学科の実験室及び研究室を視察し、熱心に交流を深めることができました。



菊池茨城大学長と金教授(忠北大学校)

◆附属中学校2年生、文部科学大臣奨励賞受賞

平成19年1月27・28日に開催されたTX記念第7回全国中学生ものづくり教育フェア「あなたのためのお弁当コンクール」(文部科学省等主催)において、茨城大学教育学部附属中学校の尾崎友紀さん、横田奈々さん、関根久美さんの3人が、全国一位の「文部科学大臣奨励賞」を受賞しました。

大好きなおばあちゃんのために何かしたいという一人の生徒の願いから、3人は夏休みを利用して老人ホームのボランティアに参加し、高齢者が好む料理の特徴について研究しました。

献立作成においては、食品群別摂取量の目安を参考に、バランスのよい食品を選び、味つけや調理法を工夫しました。実際にお弁当を作るときには、調理師の免許をもっているスクールボランティアの方の助言を受けながら、調理の手順や用具の使い方など何度も練習しました。指導に当たった川又祥子教諭からは、「大切な人を思う生徒たちの純粋な気持ち、そして、中学生の創造性と実行力を、私自身が学びました。」との感想が聞かれました。



－「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 12月号－

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「飛び出せ！キャンパス」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成18年12月14日(木)・・・獅子像の謎

(教育学部情報文化課程社会情報コース3年次 岩田 直樹くん)

水戸市大工町の交差点のガソリンスタンドには、なぜか巨大な獅子石像が設置されています。今までは風景の一部として、特に気にすることもありませんでした。しかし、ある教授から「この獅子石像が十数年前に風水の専門家が水戸の発展を願ってその大工町の交差点ともう一体三の丸地区の市道の一角に設置した。」と教えてもらいました。

そこで、これはおもしろい話だと思い、この獅子石像の真意を知ってもらいたいと映像をつくり、紹介しました。



写真は
大木アナウンサーと
教育学部
情報文化広報プロジェクト
の皆さん

NHK水戸放送局公開スタジオにて：

左から：大木アナウンサー、藤田くん、島田くん、岩田くん、荒木さん、飯島さん、
小野さん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

※デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。